

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 補助金審査部会（産業活性化プロジェクト促進事業）
開催日時	令和5年8月23日（水） 午前・午後）10時00分 開会 午前・午後）11時00分 閉会
開催場所	茨木市役所 本館1階 第1会議室
議長	野口 義文 氏（立命館大学 副学長）
出席者	野口義文氏（立命館大学 産学官連携戦略本部）、伊津田崇氏（中小企業診断士）、辻田素子氏（龍谷大学 経済学部）、高岸功氏（北おおさか信用金庫 業務推進部）
欠席者	板倉幸司氏（公募市民）
事務局職員	河原商工労政課長、武部商工労政課長代理兼商工振興係長、 大下商工労政課職員 【3人】
開催形態	一部非公開
議題（案件）	(1) 会議の公開について (2) 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金趣旨説明 (3) 応募団体プレゼンテーション及び審査
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金募集要領 ・資料2 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金の選考について ・資料3 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業 審査基準及び配点表

議事の経過

1 開会

事務局：(開会のあいさつ)

2 趣旨説明

事務局：(資料1～3説明)

3 会議の公開について

事務局：①本部会について

原則公開とし、市民等の傍聴を認める。ただし、申請案件の審査に関する部分は、非公開とする。(※茨木市審議会等の会議の公開に関する指針第3より)

②議事録について

公開部分については、市のホームページ等で公開する。ただし、内容は要約したものとし、個々の発言者の名前は記載しない。

③傍聴希望者：なし

4 応募団体プレゼンテーション及び審査

(1) 産業活性化プロジェクト促進事業申請案件：

1件目のCOFFEE MEETS 実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：前回イベントに参加したコーヒーロースター店は、何店舗あったかを伺いたい。

申請者：8店舗が参加してくれた。

B委員：前回実施後の改善点があれば伺いたい。

申請者：前は、フードが少なく、子供が遊べるコンテンツも少なかった。

イベントとして2～3時間で飽きてしまう、飲み比べチケットの枚数が多くゆっくり飲めなかったという声もあった。今回は、コーヒーと親和性のあるアウトドアをテーマに、ゆっくりできる演出にし、ワークショップなども充実させる。

C委員：新世代のコーヒーとはどういうものか。雨天決行か。自主運営する際の課題点を伺いたい。

申請者：新世代のコーヒーとは、トレーサビリティがしっかりしているスペシャリティーコーヒーのことをいう。同じ豆でも焙煎により、味わいに違いがある。コーヒーミーツでは、そういった特徴のあるコーヒーロースター店を誘致している。

雨天時は中止。小雨の場合は決行する。

来客者 2000 人程度になれば、自主運営できる。今回は、来客者 1300 人程度を見込んでいる。人の流れをつかむため、会場を少し広くとった。コーヒー以外のコンテンツでも集客を目指したい。

D委員：コーヒーイベントとは、一過性のものではなく、今後、根強く普及し、定着していくという認識でよいか。アウトドアグッズ等の販売は行うのか。来客者の年代層はどのような層か。

申請者：コーヒーはロースターの個性も多様で全国的に数もある。また特性を出しやすく、扱いやすいので、一過性のイベントにはならない。今後、根強く普及し定着していくために、コーヒーだけでなく、丁寧な暮らしの提案もしていくつもりだ。今回、アウトドアグッズ等の販売は行わない。

これまでに実施した際の来客者の層は、主に 30、40 代の男性であった。7 割が茨木市民。3 割が市外からの来訪者であった。また家族連れも来てくれた。

A委員：コーヒーは万国共通の飲み物なので、姉妹都市のミネアポリス市や、小豆島と連携して（豆を提供してもらい焙煎は会場で行うなど）、イベントとしての規模を広げて行ってほしい。

5 審査結果

(1)COFFEE MEETS 実行委員会

400 点中 299 点 ⇒ 採択候補案件

<選考基準>

出席委員の評価点合計の 65%以上 (100 点×4 人×65%=260 点) を取得した事業を、採択案件の候補とする。

ただし、上記基準を上回る事業であっても、個人の総得点の 1/2 (100 点×1/2=50 点) 以下の点数を付けた委員がいる場合は、協議のうえ採択候補案件を決定する。

以上